

平成 22 年度事業報告

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

平成22年度の主な事業活動は、不登校児童生徒の学校復帰支援活動に関わる教育内容の更なる充実、環境教育啓発活動のほか、2つの調査研究事業の完成年度に向けた取り組みを行った。

不登校支援の実践現場では、指導教科やカリキュラムの充実、特色のある課外授業等を手厚くし、不登校児童生徒の学校復帰支援に向けた体制を強化した。

また、自然体験活動では、子どもゆめ基金助成事業から、関東分室に加え関西分室においても初の助成金がつき、広域的なサマーキャンプを実施し、自然の中から多くのことを学び自信をつけた不登校児童生徒の学校復帰率が高まった。

「引きこもり予防を含む不登校改善のための支援等推進事業」（独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業）では、2ヵ年の研究成果として、ひきこもり状態から学校復帰・社会参加するきっかけ等の調査研究から導き出された研究報告書の作成、実践では専門家の協力のもと、北海道から九州までの全国主要都市で学校復帰のためのシンポジウムを開催し、教育関係者、保護者の啓発活動を行い、本内容がマスメディアから取材を受ける等した。

5歳から9歳までの子どもの発達段階に応じた健やかな育成を支援する教育プログラムの研究開発では、各領域の専門家と開発したプログラムが完成し、研究成果を教育現場に普及推進するための次世代育成センターを設置運営する計画に至った。

環境教育啓発活動においては、昨年度の全国環境教育ポスターコンクールで全国最優秀賞を受賞した子ども達と共に、北海道・富良野の大自然で、地球環境問題の原点を五感を通じて体感するプログラムを実施、その模様が地元新聞で掲載された。また、今年度の本環境教育ポスターコンクールでは、学校からより厳選された作品が多く寄せられ、環境共生の輪の広がりをみせた。

その他、会報誌を発行し、当財団が行ってきた公益事業を更に認知向上させることを行った。

22年度の活動の主な内容は、以下のとおりである。

I. 運営に関する事項

<会議事項（1）>

年月日	会議名	議 題	場 所
平成22年6月9日	定例評議員会	平成21年度事業報告について意見及び承認を求める件 平成21年度収支決算について意見及び承認を求める件	㈱フォーシーズ内 会議室
平成22年6月9日	定例理事会	平成21年度事業報告について承認を求める件 平成21年度収支決算について承認を求める件	同 上

年月日	会議名	議 題	場 所
平成23年3月16日	定例評議員会	平成22年度事業計画の変更について議決を求める件 寄付金について意見を求める件 平成22年度収支補正予算について議決を求める件 平成23年度事業計画について議決を求める件 子育て支援プロジェクトリーダーの研修事業と資格付与について議決を求める件 平成23年度収支予算について議決を求める件 任期満了に伴う役員の選任について議決を求める件	インターナショナル・パシフィック大学 日本事務局 会議室
平成23年3月16日	定例理事会	平成22年度事業計画の変更について議決を求める件 寄付金について議決を求める件 平成22年度収支補正予算について議決を求める件 平成23年度事業計画について議決を求める件 子育て支援プロジェクトリーダーの研修事業と資格付与について議決を求める件 平成23年度収支予算について議決を求める件 任期満了に伴う評議員の選任について議決を求める件 理事長、副理事長、専務理事の互選の件（議場提案）	同 上

<会議事項（2）>

年月日	会議名	議 題	場 所
平成22年 4月29日 5月23日 6月20日 8月14日 10月31日 12月28日 平成23年 1月30日 2月27日	夢いのち育む フォーラム 有識者会議 (8回)	9歳までの子どもの発達段階に応じ、「こころ・からだ・あたま」をバランスよく育むための教育プログラム、カリキュラム開発等に関する調査研究検討会議	こども教育支援財団 東京事務局 会議室 インターナショナル・パシフィック大学 日本事務局 会議室

<会議事項（3）>

年月日	会議名	議 題	場 所
平成22年 9月12日 11月17日 平成23年 3月25日	（独法福祉医療機構社会福祉振興助成事業に係る有識者会議 （3回）	「引きこもり予防を含む不登校改善のための支援等推進事業」に関する調査研究検討会議 平成21・22年度継続事業完成年度	東京国際ビジネスカレッジ 会議室 インターナショナル・パシフィック大学 日本事務局 会議室
平成22年 4月 2日 4月14日 8月19日 10月 8日 11月19日 平成23年 1月14日 2月14日	こども教育支援財団 財団分室会議 東日本地区	「元気の泉」運営に関する会議 ケースカンファレンス	東京分室 さいたま分室 千葉分室 柏分室 横浜分室
平成22年 4月20日 11月26日	こども教育支援財団 財団分室会議 西日本地区	「元気の泉」運営に関する会議 ケースカンファレンス	芦屋分室 大阪分室

<行政関連事項（1）>

年月日	件 名	備 考
平成22年 3月31日	<文部科学省> 平成22年度事業計画・収支予算書提出	文部科学大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則（平成2年総理府・文部省令第4号）第6条
平成22年 4月 8日	<（独法）福祉医療機構> 平成21年度助成金完了報告書提出 （3,115千円）	引きこもり予防を含む不登校改善のための支援等推進事業（平成21・22年度継続事業）
平成22年 6月25日	<（独法）福祉医療機構> 平成22年度助成金交付決定通知 （4,500千円）	引きこもり予防を含む不登校改善のための支援等推進事業（平成21・22年度継続事業）
平成22年 6月28日	<文部科学省> 平成21年度事業報告・収支決算書提出	文部科学大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則（平成2年総理府・文部省令第4号）第8条
平成22年10月21日	<（独法）国立青少年教育振興機構> 平成22年度子どもゆめ基金助成金交付決定通知（1,005千円）	いきいき夏休み自然体験親子合宿キャンプ事業2010（関東） 夏休み親子宿泊キャンプ（関西） 一不登校改善事業一

年月日	件名	備考
平成22年10月28日	< (独法) 国立青少年教育振興機構 > 平成22年度子どもゆめ基金助成金実績報告書提出 (1,005 千円)	いきいき夏休み自然体験親子合宿 キャンプ事業2010 (関東) 夏休み親子宿泊キャンプ (関西) — 不登校改善事業 —

< 行政関連事項 (2) >

年月日	件名	備考
平成23年1月7日	< 文部科学省 > 平成22年度特例民法法人概況調査票提出	公益法人の設立許可及び指導監督 基準
平成23年3月31日	< 文部科学省 > 平成23年度事業計画・収支予算書提出	文部科学大臣の所管に属する公益 法人の設立及び監督に関する規則 (平成2年総理府・文部省令第4 号) 第6条

II. 事業に関する事項

1. 子どもの教育に関する調査研究

◇ 引きこもり予防を含む不登校改善のための支援等推進事業

－独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業－

・引きこもり予防のための効果的な支援のあり方

－不登校児童生徒を対象とした支援から－

(1) 有識者会議委員 6名

座長：大橋 博（こども教育支援財団理事長）

委員：伊藤美奈子（慶應義塾大学教授）

委員：児玉 政徳（横浜市立中学校校長）

委員：近藤 靖宏（芦屋市教育委員会委員長）

委員：田原 俊司（玉川大学教職大学院教授）

委員：松村 茂治（明治学院大学教授）

(2) 開催日：

第1回 平成22年 9月12日 前年度調査内容の報告と今年度の研究計画の検討

第2回 平成22年11月17日 調査内容の検討と今後の方向性

第3回 平成23年 3月25日 本年度調査研究報告書最終案の報告と報告書案の検討

(3) 研究報告書配布先：

都道府県政令指定都市、自治体、特別区、その他教育関係機関等 1,000 部

(4) 内容：ひきこもり状態にある児童生徒の生活状況や心理的特徴、不登校やひきこもりと関連する要因、将来の適応状況に影響を与える中・高校時期の支援内容について調査分析を行い、ひきこもり予防のための支援のあり方、ひきこもり状態にある児童生徒への効果的な支援のあり方について検討を行った。

◇ 夢 いのち育むフォーラム

－子どもの学びへのアプローチ－

・9歳までの子どもの発達段階に応じたカリキュラム開発及び実践・検証

(1) 研究有識者10名

座長：大橋 博（こども教育支援財団理事長）

副座長：内田 伸子（お茶の水女子大学大学院教授、文部科学省科学技術学術審議会委員）

統括：大橋 節子（総合教育研究財団理事長）

国語：松木 正子（十文字学園女子大学教授）

算数：中原 忠男（IPU・環太平洋大学副学長、日本数学教育学会会長）

神戸 佳子（お茶の水女子大学附属小学校教諭）

理科：室伏きみ子（お茶の水女子大学大学院教授、文部科学省科学技術学術審議会委員）

増田 伸江（お茶の水女子大学附属小学校教諭）

科学：榊原 洋一（お茶の水女子大学教授、医学博士）

アート：郡司 明子（お茶の水女子大学附属小学校教諭）

(2) 開催日：

- 第10回 平成22年 4月29日 次世代育成メソッドの学習指導案の提案と検討
第11回 平成22年 5月23日 各専門領域からの検討、検証、次世代育成メソッドの展開についての検討
第12回 平成22年 6月20日 次世代育成メソッドの実施計画、リーフレット作成の検討
第13回 平成22年 8月14日 各専門領域からのプログラム提案
第14回 平成22年10月31日 「ウィークリーノート」の提案、命名
第15回 平成22年12月28日 「ウィークリーノート」でとりあげるテーマについての検討
第16回 平成23年 1月30日 「おまけカード⇔親子で学ぶ豆知識」完成版（一部除く）の提示
第17回 平成23年2月27日 平成23年度の年間計画に基づく、講師研修会、定期学習会等についての検討

(3) 内容：9歳までの子どもの発達段階に応じ、「こころ・からだ・あたま」をバランスよく、育む教育プログラムの調査研究・検証を行うため、有識者委員会を組織し、言語、表現、サイエンス、発達（精神）医学、体育、アート等、各領域のテーマごとの調査研究を行い、多角的視点から検討を行った

2. 子どもの教育に関する研修事業

◇ 「学習心理支援カウンセラー」研修事業及び資格認定

－教育機関に関わる学校の先生を対象とした研修－

- (1) 実施期間：平成22年4月～平成23年3月
(2) 対象者：教員及び不登校支援機関等の職員等
(3) 実施場所：全国2箇所（東京、神戸）
(4) 資格取得者：

平成21年度	入門課程 24名、基礎課程 54名、専門課程 8名
平成22年度	入門課程 22名、基礎課程 47名、専門課程 5名

(5) 研修内容：

- ① 入門課程…不登校支援機関や教育機関等でボランティアとして働く大学生・大学院生を対象に、教育や心理学の基礎的知識を習得する研修を実施
講義研修（6時間×2日間）、修了試験
- ② 基礎課程…指導力・学級経営力の向上、不登校に対する見立て・基本的対応方法の習得
講義研修（6時間×6日間）、在宅研修レポート（20時間）、実践ワーク（2回以上）、修了試験
- ③ 専門課程…行動療法の技法、ブリーフカウンセリング、ピアアシスタント養成技術の習得
講義研修（6時間×6日間）、実践研究レポート作成

◇ 「ピアアシスタント」の研修事業及び資格認定

－児童生徒に対するコミュニケーション能力の開発－

(1) 実施期間：平成22年4月～平成23年3月

(2) 対象者：高校生

(3) 実施場所：

平成21年度	全国12箇所 さいたま、東京、柏、千葉、横浜、静岡、浜松、名古屋、京都、大阪、 芦屋、鹿児島
平成22年度	全国14箇所 仙台、さいたま、東京、秋葉原、柏、千葉、横浜、厚木、静岡、浜松、 名古屋、芦屋、三田、岡山

(4) 授業形態：①年間授業型、②集中講義型

(5) 資格取得者：

平成21年度	基礎課程 249名、専門課程 121名
平成22年度	基礎課程 309名、専門課程 75名

(6) 研修内容：

①基礎課程…ピアアシスタントの役割、コミュニケーションスキル、不登校児童生徒との関わり方の習得

講義研修（45分×30時間）、修了試験

②専門課程…不登校の理解、不登校児童生徒への支援、元気の泉での実習

講義研修および実習（45分×30時間）、修了試験

◇ 財団職員のためのスーパーバイズ研修

(1) 実施日：平成23年1月21日～22日

(2) 場所：こども教育支援財団東京分室

(3) 対象者：財団教職員

(4) 参加者：財団教職員 14名

(5) 講師：亀口 憲治先生（東京大学特任教授）

(6) 内容：子どもの心身の発達段階に応じた学習・心理・生活を含めたカウンセリングの基礎理論、コミュニケーションスキル、自己理解、他者理解のための学習・支援方法及び保護者へのケアに関して主に家族療法の家族イメージ法（FIT）の理論と技法に関する研修をロールプレイにて教職員対して行った

◇ ピアアシスタントの対応スキル等向上のための研修

(1) 実施日：平成23年2月25日～26日

(2) 場所：こども教育支援財団東京分室

(3) 対象者：ピアアシスタント

(4) 参加者：ピアアシスタント 20名、財団教職員 8名

(5) 講師：田原 俊司先生（玉川大学教職大学院教授）

東 宏行先生（埼玉県立大学准教授）

- (6) 内 容：不登校児童生徒と関わっていく上での基本姿勢（カウンセリング、コミュニケーションスキル、他者との関わり方等）学習指導方法、発達障害への知識・理解、登校指導について研修を行った

◇ 乳幼児ケアヘルパー（初級）資格認定

- (1) 実施日：平成22年4月～平成23年3月
(2) 場 所：愛媛女子短期大学
(3) 対象者：①幼稚園教諭もしくは保育士資格を有し、教育・保育・児童福祉等の分野での仕事に従事する者（職務経験1年以上）
②在籍翌年度に幼稚園教諭もしくは保育士資格見込みの者
(4) 受験者：17名（合格者 16名）
(5) 内 容：母親や家族も含めた相談援助技術の習得や心理療法的な保育内容の工夫、発達促進的な保育内容の実践等、現場で抱える問題に即した理論と技術を身につけていることを認定

◇ 幼児英語インストラクター資格認定

- (1) 実施日：平成22年4月～平成23年3月
(2) 場 所：愛媛女子短期大学
(3) 対象者：①幼稚園教諭もしくは保育士資格を有し、教育・保育・児童福祉等の分野での仕事に従事する者（職務経験1年以上）
②在籍翌年度に幼稚園教諭もしくは保育士資格見込みの者
(4) 受験者：5名（合格者 5名）
(5) 内 容：幼児の英語指導の知識と技能を身につけていることを認定

◇ キッズスポーツリーダー資格認定

- (1) 実施日：平成22年4月～平成23年3月
(2) 場 所：愛媛女子短期大学及び元気の泉保育園
(3) 対象者：保育学科1・2年次（幼児体育専攻者）
(4) 受験者：24名（合格者 24名）
(5) 内 容：幼児体育に関する基本的な知識と理論、実践的な指導方法を指導者、指導補助者として身につけていることを認定

3. 子どもの教育に関するシンポジウム

◇ 不登校中学生のための高校進路説明相談会

－独立行政法人福祉医療機構教育講演会－

- (1) 実施日：①平成22年 7月31日
②平成22年 8月 1日
③平成22年10月23日
(2) 場 所：①京都産業会館
②コア・いけぶくろ（豊島区立豊島区民センター）
③メルパルク京都
(3) 対象者：不登校児童生徒、保護者並びに教育関係者等

- (4) 講師：①佐谷 力先生（常盤会学園大学准教授）
 ②東 宏行先生（埼玉県立大学准教授）
 ③伊藤美奈子先生（慶應義塾大学教授）
- (5) 参加者：①25組 26名
 ②72組 112名
 ③22組 26名
- (6) 内容：不登校中学生に、高校進学を選択肢を広げてもらうことを目的に、高校の通い方（全日制、定時制、通信制等）の説明及び専門家による進学指導講演、教職員による個別相談等を行い、進学支援を行った

◇ 学校復帰支援シンポジウム

- (1) 実施期間：平成22年5月～平成23年3月
 (2) 対象者：不登校生徒児童を持つ保護者並びに教育関係者等
 (3) 実施場所：全国19箇所

平成21年度	札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、浜松、名古屋、京都、大阪、奈良、芦屋、姫路、広島、小倉、福岡、鹿児島
平成22年度	札幌、仙台、さいたま、所沢、東京、千葉、柏、横浜、静岡、浜松、名古屋、京都、大阪、奈良、芦屋、広島、小倉、福岡、鹿児島

- (4) 実施回数：

平成21年度	合計92回
平成22年度	合計74回

- (5) 参加者：

平成21年度	合計 3,125 名
平成22年度	合計 2,988 名

- (6) 内容：各回テーマを設け、不登校問題に実践的に取り組まれている講師による講演、不登校を克服した児童生徒やその保護者、クラスの担任・養護教諭、相談機関担当者などによる体験談報告を行った

◇ 子どもの育ちを考えるシンポジウム

－「子どもの豊かな育ちの環境づくり」～子どもの荒れる心に向き合って！～－

<（財）こども教育支援財団、（財）総合教育研究財団共催>

- (1) 実施日：平成22年11月13日
 (2) 会場：姫路市立山陽中学校
 (3) 参加者：教育関係者、保護者等 227名
 (4) 講師：指定討論者 富永 良喜（兵庫教育大学教授）
 (5) 内容：子どもの暴力に関する諸問題について現状把握と認識を問い直し、効果的に対応するために関係機関との連携・取組みの方向性についてのシンポジウムが行われた

4. 子どもの教育に関する技能教育施設による事業運営

－ 中学校卒業者に対して自己確立のための高等学校課程にかかる教育事業－

(1) 対象者：中学校卒業者

平成21年度	合計 1,696 名
平成22年度	合計 884 名

(2) 実施場所：全国7箇所（さいたま、所沢、千葉、静岡、姫路、広島、小倉）

(3) 実施日時：月～金曜日 8:30～ 15:30（分室によって異なります）

(4) 内容：「学習面」「精神面」「体力面」「コミュニケーション力」の向上をベースに、将来の進路を決定していくため、下記のコースを置く

- ① オンリーワンコース… 中学時代不登校経験者及び不登校による高校中退者に学校復帰をさせる
- ② 総合進学コース… …… いろいろな体験から自分の進路を模索させる
- ③ 国際コース… …… 留学体験を通して自立性を高める
- ④ 難関大学進学コース… 自分の希望する大学進学を達成させる
- ⑤ 福祉心理コース… …… 「元気の泉」と連携してピアアシスタント研修や福祉実習を行う

上記のコースの会員に対して下記のサポートを共通して行う

- ・ 通信高校と技能連携し高校資格を与える
- ・ オリジナルテキストを使用した基礎学力の養成
- ・ 教員全てに学習心理支援カウンセラーの資格を取得させ、心理面でのサポートを行う

5. 小学生、中学生の不登校児童・生徒及び保護者に対する学校復帰支援活動

◇ 子どもの居場所としての「元気の泉」の運営

(1) 対象者：不登校傾向にある小・中学生・高校生および保護者

平成21年度	合計 416 名
平成22年度	合計 428 名

(2) 実施場所：

平成21年度	全国14箇所 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡
平成22年度	全国14箇所 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡

(3) 実施日時：月～金曜日 10:00～ 17:00（分室によって異なります）

(4) 学校復帰者数：

平成21年度	合計 256 名	学校復帰率 61.5 %
平成22年度	合計 289 名	学校復帰率 67.5 %

学校復帰率には、部分や一部登校含む

(5) 内容：「学習面」「精神面」「体力面」「コミュニケーション力」の向上をベースに、「学校復帰」を最終目標として活動していくため、下記のコースを置く

- ① ファミリー会員コース… …… 保護者へのサポートを中心とする

- ②メンタルサポーターコース…ひきこもり傾向の児童生徒に対し家庭訪問によるサポートをする
- ③キャンパス通学コース…週1日コース、週2～5日コースで元気の泉へ通学する
- ④高校準備コース…中3生徒を対象に高校生活を円滑に始められるようにする
- ⑤アフターケアコース…元気の泉を経て学校復帰を果たした児童生徒をフォローする

上記のコースの会員に対して下記のサポートを共通して行う

- ・「元気の泉」通室保護者への定期的な個別面談
- ・児童生徒在籍校関係教員との定期的な情報伝達
- ・教育シンポジウムの案内、活動報告書、活動通信の作成と郵送
- ・親の会の実施

◇ 子どもの居場所と親の役割を考える会（親の会）

- (1) 実施期間：平成22年4月～平成23年3月
- (2) 対象者：会員保護者、及び未会員参加希望保護者

平成21年度	合計	820	名
平成22年度	合計	850	名

- (3) 実施場所：全国14箇所

平成21年度	札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡
平成22年度	札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡

- (4) 実施回数：月1回程度（土曜日 13:00～16:00）

平成21年度	合計	60回
平成22年度	合計	84回

- (5) 内容：親の会は、講師、スタッフを交えての勉強会と保護者同士の懇親会の場となっている。毎回さまざまなテーマを取り上げ、心理学的な面を通して子どもとのかかわりについて考えていく機会にしている

◇ 子どもの教育に関する相談事業（カウンセリング）

- (1) 対象者：不登校傾向のある児童・生徒、保護者、教員他

平成21年度	延べ	1,590	名
平成22年度	延べ	1,650	名

- (2) 実施場所：元気の泉およびその他シンポジウム会場にて

平成21年度	全国14箇所元気の泉、その他シンポジウム会場 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡
平成22年度	全国14箇所元気の泉、その他シンポジウム会場 札幌、仙台、さいたま、東京、千葉、柏、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、広島、福岡

- (3) 実施期間：平成22年4月～平成23年3月
- (4) 内容：不登校克服・改善への対応の仕方、スキル、心理対応等の臨床的カウンセリング

◇ 自然体験活動の実施

サマーキャンプー子どもゆめ基金キャンプ事業ー

- (1) 実施日：①平成22年8月4日～5日（1泊2日）
②平成22年8月25日～27日（2泊3日）
- (2) 場所：①大阪府立総合青少年野外活動センター
②埼玉県青少年総合野外活動センター
- (3) 対象者：元気の泉及び一般の児童、生徒
- (4) 講師：①田原 俊司先生（玉川大学教職大学院教授）
②田原 俊司先生（玉川大学教職大学院教授）
- (5) 参加者：①児童生徒14名 保護者2名 ピアアシスタント生徒5名
学生ボランティア5名 財団職員3名 指導者1名
②児童生徒44名 保護者6名 ピアアシスタント生徒18名
学生ボランティア18名 財団職員11名 指導者1名
- (6) 内容：大自然の中で、自分を見つめなおす機会をもつことにより、集団の中で自分のできることを再確認したり、また同世代との関わり合いの楽しさ等を学んだ

6. 子どもの教育に関する啓発活動

◇ 第2回全国環境教育ポスターコンクール

<（財）こども教育支援財団、（財）総合教育研究財団共催>

- (1) 実施期間：平成22年6月～23年3月
- (2) 実施場所：首都圏、近畿、中四国
- (3) 後援：環境省、教育委員会（首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、江東区、品川区、新宿区、港区、世田谷区、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、近畿：兵庫県、神戸市、大阪府、京都府、奈良県、中四国：岡山県）（株）学研ホールディングス、東京ガス（株）
- (4) 審査委員：
最終審査委員長：川口 順子（参議院議員・元環境大臣・元外務大臣）
最終審査委員：安藤 忠雄（建築家）
谷口 文章（日本環境教育学会国際交流委員長）
津田 裕子（女子美術大学教授）
三浦雄一郎（(株)全国森林レクリエーション協会会長）
山根 基世（ことばの杜代表）
- (5) 表彰式：平成22年11月28日 がすてなーにガスの科学館
- (6) 展示会：首都圏、近畿、中四国巡回展示
 - ・姫路市立山陽中学校（平成22年11月13日）
 - ・IPC・環太平洋大学（平成22年11月14日）
 - ・がすてなーにガスの科学館（平成22年11月27日～12月5日）
 - ・(株)学研ホールディングス本社（平成22年12月6日～12月10日）
 - ・神戸関電ビルディングギャラリー（平成23年1月11日～1月21日）

(7) 応募校数・応募点数：

ブロック	小 学 校		中 学 校		高 校		合 計	
	校数	点 数	校数	点 数	校数	点 数	校数	点 数
首都圏	99	759	103	631	17	70	219	1,460
近畿	106	1,011	59	749	16	104	181	1,864
中四国	47	419	49	384	5	20	101	823
合 計	252	2,189	211	1,764	38	194	501	4,147

(8) 内 容：子ども達が環境について考え、環境への意識を高める機会となることを願い、2財団共催で、3ブロックの地域（首都圏・近畿・中四国）の小・中・高の学校から環境をテーマにした作品を募集し、展示会、表彰式を行った

7. 定期刊行物の発行及び広報活動

- (1) 子どもの教育に関する今日的課題を積極的に取り上げた機関紙を編集発行した。
 - ・会報「元気の泉」平成22年9月号、平成23年3月号
 - ・元気の泉パンフレット改訂版
- (2) 広報活動のネット上の重要性から、ホームページをリニューアルし、財団の業務紹介、申し込み事務等受益者へのサービス事務の拡充などネットを活用した広報の充実を図った。 <http://www.kodomo-zaidan.net/>